

助成年度：平成 12 年度

[所属] 滋賀県立大学 環境科学部
[役職] 助教授
[氏名] 秋山 道雄 (他計 6 名)

[課題]

環境負荷の少ない地域づくりに関する研究

[内容]

本研究では、負荷発生の実態を把握するために、既存の資料や研究文献を収集・整理し、あわせて法竜川を実測して、負荷量を推定した。また、負荷発生源とその程度を明らかにした。他方、今日の地域環境がもっている問題点を解明し、それを解決する方途を探るために、本研究では環境史的な視点で対象にアプローチしてきた。対象地域は、一部宿場町として機能したほかは、長い間、農村として存続してきた。それが今日のような状況に変化したのは、主として高度成長期以降の数十年にすぎない。そこで、今日のような姿に変貌する以前の自然景観や人文景観を復原し、その地域環境の特性を押さえたうえで、その後の変化のプロセスとそれが地域環境にあたえた影響の程度を考察していった。

現在、国土地理院が発行している地形図は、対象地域に関しては大正時代初期のものから利用可能である。これと、第二次世界大戦後の空中写真が利用可能である。これらによって、6つの時間断面における景観を復原し、一方、集落調査に通じてミクロな状況の変化を追跡して、対象地域を景観変遷史的に把握した。県史や郡史、市史などによって、変化の一般的な状況は把握できるが、複数の時間断面の景観を復原してそれらの時系列的な変化の特性を明らかにすることは、対象地域でこれまで行なわれていなかった。

本研究では、行政部門による環境管理を視野にいれつつも、それがカバーしきれていない事象にも対象を広げて地域環境マネジメントのあり方を考察してきた。環境学習から始まった住民の環境保全行動が、地域づくりのなかで果たす役割については、今後出てくるであろう具体例に則して検討する必要がある。